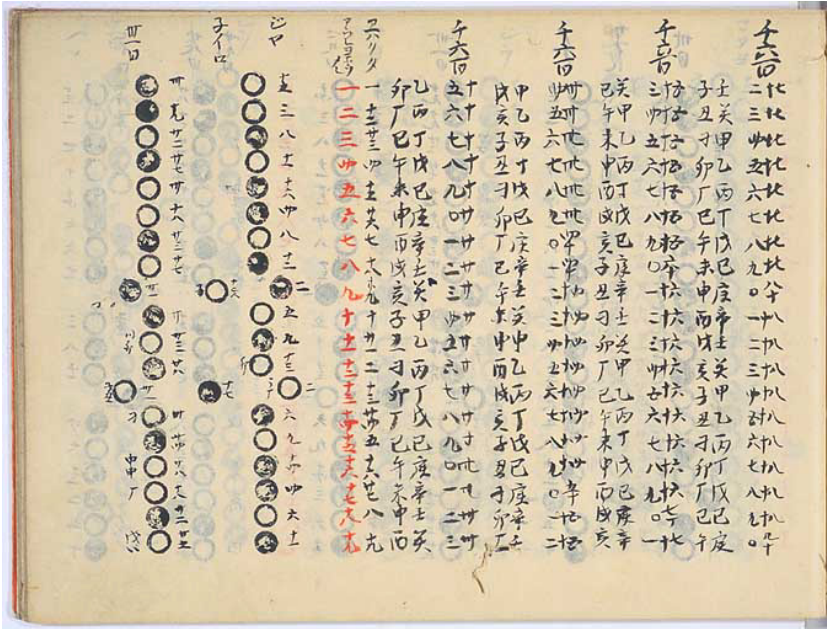


元和航海記の朔望表の原典を求めて

参加費無料

■ 講師: 山田 義裕

2021年12月18日(土) 14:00~16:00 Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)



「元和航海記」の朔望表の最初のページ

池田好運の「元和航海記」には、天文航海のための太陽の赤緯表と共に海の潮汐を知るための月の朔望表が載せられている。この表は19年間の毎月の朔望が、1615年から1690年に対応し、その後も「永年」に使えるようになっている。太陽の赤緯表の原典を探し求め、スペインのロドリゴ・サモラーノの「航海術要覧」を見つけたように、この朔望表の原典をスペインとポルトガルの書物の中に長年求めてきたので、これを報告したい。

■ 山田 義裕 (やまだ よしひろ) 日本海事史学会会員

1968年に早大政治学科を卒業し、現在の日本製鉄に入社。スペイン、ブラジル、メキシコに滞在。1973年に当会に入会。海外では「国際海事技術史会議」参加メンバー。16-17世紀のスペインとポルトガルの造船史と航海術史が主たる関心分野。



15世紀のイタリアの手写本に所載の月の運行と潮汐の関係を表した「月(ルナ)」の図
エステンセ大学図書館所蔵「天体について(De Sphera)」LAT.209

古代インド、バビロニア、エジプトの天文表がギリシャのプトレマイオスの理論に補強され、アラビアにおける改良を経て中世のスペインに到達し、スペイン語とラテン語に翻訳された。しかしこの段階ではいまだ、天文表は天文学者と修道僧の一部にしか理解できないものであった。これらの天文表の中から月の朔望だけを取り出し、誰にも一目瞭然の形にした表が15世紀のスペインで現れ、ベストセラーとなった。

- 関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。メールでお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には12月15日(水)までにご連絡いたします。
- 会員にはメールでご案内をお送りしています。
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

- 申込〆切: 2021年12月14日(火) 正午(12:00)
 - 申込先: kaijishi.web@gmail.com (担当: 大野)
- メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み(非会員)」として、本文にはお名前をお書きください。

[今後の例会 開催予定日: 2022年1月22日(土)・2月26日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

